



つくってみよう！

わが家のマイ・タイムライン

災害発生	当日	1日前	2日前	3日前	時間
避難完了 河川堤防の決壊、浸水 土砂崩れ、崖崩れなど	身の安全を確保 避難情報の発令 ・高齢者等避難 ・避難指示 ・緊急安全確保	避難準備完了 ・大雨・洪水・暴風警報 ・安全メールなどによる注意喚起	必要なものを準備 ・大雨・洪水・強風注意報	情報の収集 ・台風予報	防災気象情報 行政情報
	避難行動を開始！ ・高齢者や妊婦など避難に時間がかかる人は早めに避難する。 ・自宅にいることの安全性を確認できる場合や、避難所への移動が危険な場合は、身を守るための行動として浸水しない場所（自宅の2階など）へ避難する。	・携帯電話やモバイルバッテリーを充電しておく。 ・川の水位や道路の通行止め情報などをインターネットで確認する。 ・不要不急の外出をしない。 ・非常持出袋や貴重品などを持ち出せるよう準備する。 ・避難しやすい服装に着替える。	・家の非常時用の備蓄品や非常持出袋の中身をチェック。足りないものや必要なものを買い出しに行く。 ・普段飲んでいる薬を1週間分、病院へもらいに行く。 ・植木鉢や自転車などの飛ばされそうなものを家の中にしまう。 ・車にガソリンを給油する。	・テレビの天気予報や、気象庁のホームページをチェックし、今後の天気の変化に注意する。 ・マイ・タイムラインを見ながら、今後の動きを確認する。 ・ハザードマップなどを見ながら、避難場所や避難ルートを確認する。 ・家族の予定を確認する。	行動例
絶対やめよう！ ・不要不急の外出 ・単独での行動 ・田んぼや畑の様子を見に行く	例)〇〇年、裏山が崩れ、民家が損壊した	例)〇〇川の水位は短時間で増加する	例)〇〇前の道路は水があふれやすい	例)〇〇年豪雨は予報以上の雨量だった	地域の特性や過去の災害を書き込もう わが家の行動を書いてみよう ※災害は想定のとおりに行進するとは限りません。防災行動の目安として考え、実際の災害時には適切な避難行動を取りましょう。
	例)早めに避難所に行く	例)近所の人にも避難の声掛け	例)離れて暮らす家族に連絡	例)テレビで天気予報を確認	

情報収集の手段を確認しよう

●市が発令する避難情報
市では、災害の危険性が高まったときに警戒レベルに応じて避難情報を発令します。警戒レベル4の「避難指示」を発令したときは、速やかに避難してください。

- 警戒レベル・避難情報など
- 5 緊急安全確保
 - 4 避難指示
 - 3 高齢者等避難
 - 2 大雨・洪水注意報など
 - 1 早期注意情報

危険な場所から全員避難

テレビではリモコンの「dボタン」を押すと、気象情報や災害に関する情報をいち早く確認することができます。また、コミュニティFM放送(FMじょうえつ/76.1MHz)のほか、市公式SNSなどさまざまな方法で情報を収集しましょう。



家族で話し合おう

- 集合場所や連絡方法を決めておこう
災害が起きたときに家族が同じ場所にいるとは限りません。家族で災害時の避難場所や連絡手段は決めてありますか？
- 避難行動を検討しよう
避難所に行くことだけが避難ではありません。自宅の2階や親戚・知人宅など、安心・安全な避難場所はどこですか？

地域の災害リスクを知ろう

- 「ハザードマップ」を確認しよう
自分の住む地域の危険箇所を確認し、地域の特性や過去に起きた災害について知ろう。**非常持出品や備蓄品のリストは、各世帯に配布した洪水ハザードマップに掲載しています。**

